

2022年4月28日
トヨタ紡織株式会社

2021年度 期末決算説明会 質疑応答要旨

Q 1 : 第 4 四半期の台数、売上、利益が第 3 四半期と同じような数字になっている。第 4 四半期に一過性の要因があれば教えてほしい。

A 1 : 日本地域における固定資産税の一括計上がマイナス 20 億円程度、アルゼンチンにおけるインフレ会計の調整がマイナス 20 億円程度ある。一方で材料費高騰影響において、一部回収できたものがプラスで 10 億円程度ある。一過性要因を除くと第 4 四半期の営業利益は約 200 億円、利益率は 5.3%程度とみている。

Q 2 : 2021 年度実績の利益増減要因「その他」△123 億円について説明して欲しい。

A 2 : 減産に伴う当期の雇用維持費用が△60 億円程度、昨年に世界各地で受領したコロナ助成金が△30 億円程度。加えてアルゼンチンのインフレの影響が△20 億円程度ある。

Q 3 : 2022 年度通期業績予想におけるシート台数の計画前提を教えてほしい。

A 3 : お客様の 2022 年の生産計画台数を前提に、7 月までの生産変動の情報を織り込んで計画している。

Q 4 : 2022 年度 of 材料費・輸送費等の高騰について考え方を教えてほしい。

A 4 : 原油高に伴う様々な材料の値上げ等見込んでおり影響として 30 億円ほど見ている。それに加え輸送費の高騰等で 80 億円ほど見ている。その他エネルギーの増加、お客さまからの回収等々も含め、全体で 116 億円ほど計画の中に織り込んでいる。

Q 5 : 2022 年度の計画について、合理化として 273 億円と大きな数字が入っている。ここまで水準が高まる背景、アイテムなどを教えてほしい。

A 5 : 2021 年度の 8 月に台数が大きく減少した時に社内で収益確保活動を始めた。その活動に年間通じて取り組んだ結果、特に現場の改善について弾込めができた。ここが台数の増加に連動して増えてくると考えている。

Q 6 : 2022 年度の設備投資見通しが 660 億円と高い水準だが、その理由と今後の見方について教えてほしい。

A 6 : 2021 年度は、コロナ感染拡大により設備の交換時期や投資の見直し、タイミングの見直しを行っ

た。2022 年度はそれらを織り込んだ上で、中期計画に基づく競争力の強化、カーボンニュートラル関連の投資、I T の強化、それから生産拠点の効率化等々、将来に向けての投資を少し厚めに入れている。

Q 7 : 2022 年度計画の車種構成について、構成比率は前期並みと見ているか、それとも SUV 比率が変わると見ているのか、そのあたりを教えてください。

A 7 : 特にアジア地域で 2021 年度の後半から 2022 年度にかけて、コンパクト車種が立ち上がってきている。また米国並びに欧州でもコンパクトにカテゴライズされる車が増えてくると思っている。従って全体の比率としてはコンパクトの比率が上昇していくと考えている。

Q 8 : トヨタ以外の OEM への拡販について、売上として意味のある数字がでてくるのはどのくらいのタイミングになるのか教えてください。

A 8 : 日常的に営業活動を行っているが、2022 年度に売上に反映する段階にきていない。米州地域においてトヨタとマツダの合弁である MTMUS 向けのモデルが立ち上がってきた。そういった所を足掛かりにアライアンスパートナーの仕事の進め方等を理解して、我々の価値をしっかりと認めていただける営業活動を続けていく。

以 上